

## 会議録

1 附属機関の名称

犬山市史編さん委員会 (専門部会)

2 開催日時

令和 6 年 8 月 6 日 (火) 午後 5 時 50 分から午後 7 時 20 分まで

3 開催場所

犬山市役所 2 階 205 会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

(専門部会委員) 河西秀哉、佐々木重洋、岡本耕平、可児光生、笈真理子、中野裕子

(2) 執行機関

(歴史まちづくり課) 加藤課長、市野統括主査、鈴木主査補、河寄主査補、河合

※「犬山市史編さん委員会規則」(令和 3 年 3 月 24 日教育委員会規則第 6 号) 第 5 条 6 項により  
岡本委員が部会長を代理する。

5 議題

(1) 『資料編』の構成・内容について

(2) 『資料編』の頒布について

(3) 『通史編』の構成・内容について

6 傍聴人の数

0 人

7 内容

1. 開会

2. 議題

(1) 『資料編』の構成・内容について

**【資料】**

事務局：7 月 24 日時点で原稿の合計は 994.5 頁となった。何とか 1,000 頁に収まったが、印刷用レイアウトでは少し頁が増えそう。初校で調整する。部ごとの章番号を通番 (第 I 部 = 第 1~13 章、第 II 部 = 第 14~17 章)、節ごとの資料番号を章ごとの通番 (章番号-資料番号) に変更し、引用・参照を示しやすくした。一部が調整中だが、概ね掲載予定資料が固まった。各委員に担当分の編集済み Word 原稿を送っている。

(原稿の編集内容)

- ▶部会長と事務局調整または委員調整による資料の削除・追加
- ▶時系列に資料を並び替え(節・項内)
- ▶(可能なものは)資料タイトルを「〇〇が～を…する」の形に修正
- ▶資料タイトル⇔出来事年月日⇔資料内容の齟齬を修正
- ▶(可能な限り)内容を資料タイトルに反映させ、引用記事中の見出しはカット
- ▶改行、スペースの調整
- ▶年号、出典表記、誤字脱字の修正 等

編集箇所がわかるようにコメントや赤字で示した。確認してほしい。

委員：引用記事中の見出しはカットする方針とのことだが、記事見出しをそのまま資料タイトルにはいけないのか。タイトルも含めて「資料」だと思うが。

委員：記事見出しにインパクトがあるため、そのまま載せたい場合もある。

事務局：記事見出しはすべて削っているのではなく、あえて残したものもある。

### 【節の解説文】

事務局：委員から提出された解説文は「原稿データの提出要領 2.ア.」や第1回専門部会(令和6年4月26日)で示した方針に従って編集した。

- ▶節・項を設けた目的、資料を選んだ理由、資料全体からわかる事項の解説
- ▶特筆すべき個別資料の解説(全資料を網羅する必要はない)
- ▶個別資料の解説には資料番号〈 〉を挿入

こちらも編集済みWord原稿のコメントや赤字を確認いただきたい。

### 【口絵】

事務局：今年度の専門部会で①NPO編集時代の市広報紙表紙、②平成初頭と末期の航空写真等の案が出た。②は平成年間での顕著な変化が見られなかったため、部会長と相談のうえ採用を見送る。その他、市史の内容に沿ったものを、年代や地域を分散させて選定した。市民から寄せられた写真のほか、新聞社から借用予定のものなど。部会長から「子どもが写った写真」との追加提案もあったので、今後も写真の差し替えを検討していく。

委員：市民からの写真はどれほど点数が集まったか。今後、活用の予定はあるか。また、市広報紙には貴重な写真が多くあるが、どのように保存・活用されるのか。

事務局：情報提供のみの方、議員や調査協力員を含めて7人あった。今回の口絵案では3点ほど取り入れている。特定のテーマだが、1人で1,400点のデータを寄せた方もいる。市広報の写真は企画広報課が管理しており、保存・活用は市役所全体で考える必要がある。

※8月9日現在、全部で2,129点(紙焼き95点、データ2,034点)

### 【印刷体裁】

事務局：印刷製本業者から見本組が出た。「資料目次」には節タイトル、出来事年(西暦)も入れる予定。Word原稿の本文は10ptだが、印刷は少し小さい14Q(級)で組む。明朝体

を基調に、適宜ゴシック体も使う。初校レイアウトを見て気づいた点は知らせてほしい。

委員：文字の大きさが変わるため、資料本文も想定よりも多く入るということか。

事務局：若干変わってくるが、資料自体のボリュームは抑えておかないと資料目次の頁数が膨らんでしまう。全体で1,000頁を超えないようにレイアウトしていく。

## 【付録 DVD】

事務局：第2回専門部会（令和6年5月24日）で『資料編』はDVDなしでどうかという話があった。改めて市庁内の映像を確認し、検討したが、編集せずに収録できる素材がなかった。よって『資料編』付録DVDはなしとしたい。第1回編さん委員会（令和6年7月26日）で報告すると「平成市史の編さん作業として動画資料は集めておいた方がよい」「VHS等の古い媒体はデータ形式を変換して残していくべき」等の意見が出た。今回集めた資料の保存、デジタル化の問題は今後の検討課題である。

委員：動画資料はまったく付かないのか。ある程度付くと思ったので民俗班の文字原稿は少なくしていた。伝えたかったことが伝えられない感じがある。90年代に撮影されたビデオ映像は何とか付けたいところ。『尾張富士の石上げ祭調査報告書』には立派なDVが付いており、元官司の継承問題に関するインタビューも入っている。現在は完売とのことだし、あれを増産して貼り付けては。犬山祭も探せば映像はあると思う。代表的な2つの祭りを入れるだけでも全然違う。まったく付かないのは残念だ。

事務局：ストーリー立ったものがなく形式もバラバラで、『資料編』として収録に適した映像を選定しきれなかった。『通史編』で付けるか、付録DVDではなくインターネット上で公開するか等、議論が必要と考えている。第1回編さん委員会では、平成の象徴的な映像を組み合わせてダイジェスト版を作ってはどうかという意見もあった。『資料編』では（ダイジェスト版を作るような）映像編集を想定していなかったが、『通史編』に向けて検討しなくてはいけない。

委員：動画資料は『資料編』に付けるべきでは。『通史編』に付けるのはどうなのか。

委員：『通史編』に付けるとして、来年度以降に映像編集もできる体制になるならそれもいいかなと思うが、どの程度付くかは疑問。『資料編』に付かないのなら『通史編』にも付けられない気がする。媒体がどうであれ、動画資料がないとニュアンスを伝えるににくい。祭礼は平成年間で大きな変革があった。犬山祭のユネスコ無形文化遺産登録の前後はテレビ番組に取り上げられたと思う。著作権の問題はあるものの映像素材は存在するのでは。予算の問題なら仕方ないが、スケジュール的に押し込めるのならば『資料編』に入れてほしい。再度、現存の映像を見せてもらい、収録希望部分を指定すればスケジュールに間に合うか。動画資料とセットであれば文字資料がわかってもらいやすい。

事務局：予算的には『資料編』で付録DVD（素材を提供し10分程度の映像を収録）を見込んでいた。ただし現存映像の収録のみで、映像データの変換や再構成までは仕様に含んでいない。これまで付録DVDについてやり取りした結果、最終的に『資料編』では難しいという判断になった。『通史編』に向けては映像編集も含めて考えられる。その場合、どんな映像のどの部分かというやり取りから再度始めることになる。各班のバランスもある。

委員：『通史編』に付ける場合、どんな規模になるのか。民俗班としては2つの祭りの映像が入っていればよい。媒体にはこだわらない。

事務局：現在も市HPで石上げ祭の動画は公開している。再掲であっても市史の資料として公開する必要がある。市史2冊をセットで考え、『通史編』刊行のタイミングで動画資料を加えられないか検討する。最終的には市史PDFをインターネットで公開することになる。

委員：民俗資料としての動画公開が保証されれば、そのタイミングでも構わない。市史本編の記述に合わせてストーリー仕立てに編集できると一番よい。過去に映像記録の事業が行われたのに、ほとんど残っていないのは本当にもったいない。

委員：市史にURLやQRコードを載せる手もあるが将来的に見られるかはわからない。DVDという媒体もいつまで存在するかわからないが、形にすれば資料として残せる。

事務局：『資料編』としては付録DVDなしとさせていただきたい。今までのお話を伺って①『資料編』の刊行（令和6年度）、②『通史編』の刊行（令和8年度）、②と同タイミングか翌年度（令和9年度）に③市史PDFのインターネット公開＋平成編の動画公開という流れでどうか。現状、令和9年度の予算化を含めて考えている。市史をPDF化してインターネット公開というのは最低限のライン。実現可能ならば、別のシステムを使って、閲覧だけでなくテキスト検索もできるようにする等の構想がある。

委員：デジタル化、公開方法についても議論が必要かと思う。紙書籍の販売と同時にインターネット公開すると、紙書籍が売れなくなってしまう。兼ね合いが難しい。

委員：今の話だと、動画資料の公開は『通史編』刊行より後ということか。本来ならば『資料編』と同時が望ましく、それが無理ならば『通史編』と同時までにとどめたい。さらに遅れると、読者が紙書籍を読むときにイメージしにくくなる。ご検討いただきたい。

委員：無理は言わないが『通史編』のタイミングに間に合えばいいなと思う。

事務局：タイミングを検討する。まずは映像編集の基となる資料について聞かせてもらう。

## （2）『資料編』の頒布について

委員：これまでどんな方が市史を購入したのか。平成編はどんな方が買うだろうか。

委員：中世・近世の自治体史は研究者や大学院生が購入する。平成の研究者は少ないので、平成編はわからない。

事務局：既刊『犬山市史』を所有している方は買ってくれるのではないかと目論んでいる。既刊分は年間10冊ほど売れている。

## （3）『通史編』の構成・内容について

事務局：『通史編』はA5判800頁を想定している。本文は約720頁とすると、委員20人で執筆した場合は1人あたり36頁となる。『資料編』との連携をどうするか、ジャンル分けをする場合どうするか、時期の区分をどうするか等、今後議論する必要がある。

委員：平成30年なので前期・中期・後期という区分は難しい。どこかの自治体史は市長の任期で分けていた。歴史の流れで書くか、『資料編』との連携で書くかでだいぶ違う。

### 3. その他

事務局：7月31日（水）に第Ⅱ部の原稿を入稿した。8月8日（木）に第Ⅰ部を入稿する予定。初校の段階でなるべく集約させておきたいので、足りない原稿は8月中に提出してほしい。9月中旬から初校が出てくるので、細かな確認や修正をお願いしたい。校正は年内に3回を予定している。12月中には確認を完了させ、最終的な内容、頁数を確定させなければならない。

委員：初校の段階で内容はどの程度修正できるのか。

事務局：入稿したが、まだ出揃っていない部分もある。頁数の割振など大幅な変更はできないが、読みづらさの解消など、再校までは修正の余地はある。初校は電子データ（PDF）とともに、紙（ゲラ刷り）も各委員に配布して確認してもらおう。現段階で未反映の修正はすべて初校に集約してほしい。字数、レイアウト上の問題も初校の段階で調整する予定である。

事務局：次回の専門部会は11月頃の予定。それより前の開催もあり得る。詳細は改めて連絡する。